



# はばたき



No.124

2013. October

ようこそ受験生!  
オープンキャンパス  
開催

## News&Topics

- 新看護学部棟着工開始
- 国内大学初 お茶の総合研究所「茶学総合講座」開設

## 連載 研究室訪問

●看護学部 母性看護学・助産学分野

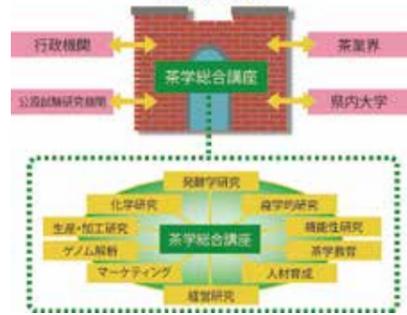
## 産学民官連携

●超小型多目的電気乾燥庫「ドラッピーmini」  
食品栄養科学部 新井映子教授×静岡製機(株)



## 全国初！お茶の総合的研究組織「茶学総合講座」を開設

茶を総合的に研究する「茶学総合講座」を、研究組織である食品栄養環境科学研究院に開設しました。茶に関する総合研究室の設置は全国の大学で初の試みです。



茶の栽培加工から機能性、販売、経営手法まで様々な研究を行う

本学では、食品栄養科学部、薬学部、経営情報学部等で各学部の専門性を生かした茶の研究を進めており、講座ではこれらの研究情報を一元化するとともに、相互に連携した取り組みを行います。また、県内の他大学や公設試験研究機関をはじめ行政・茶業界とも協力し、茶業振興に寄与することを目的としています。



京都大学名誉教授  
坂田 完三先生による講演

6月5日に開催した記念式典では、講座の看板披露に続き、京都大学坂田完三名誉教授を招いて記念講演を行いました。「我が国の茶業の多様化への期待」と題した教授の

講演では、日本茶の魅力は海外において文化性、高品質、機能性面で高い関心事であり、それらに対応するためにも茶の持つ幅広い能力を引き出すことが必要であり、研究を深化させることにより奥深く魅力ある香味や機能性を持つ多くの茶種の創造が期待されるとの内容でした。県内茶業関係者、学内教職員・学生等が多数聴講しました。

現在、国内のリーフ茶需要は苦戦で、大きな変革期を迎えています。国内外において日本茶の幅広い魅力やその健康性への関心は高まるばかり。今こそ、基

礎的な茶の研究の深化はもとより、各分野が連携して学術情報集積と実学として茶業振興に寄与することが大切と考えられます。

今後講座では、緑茶の機能性と疫学に関する研究の強化や、茶学教育と人材育成、茶飲料の嗜好調査やマーケティング戦略など、県の茶業振興に直接結びつく調査研究と人材育成を進めていきます。

## 新看護学部棟、小鹿キャンパスに着工開始

9月4日、新看護学部棟の工事安全祈願祭が建設予定地である小鹿キャンパスにて執り行われました。本庶佑理事長、木苗学長をはじめとする大学関係者、森山誠二副知事など県関係の来賓、工事関係者が参列し、工事の安全を祈願しました。

本工事は、平成26年4月から短期大学部看護学科を統合し、入学定員をこれまでの55名から120名に増員するなどの看護学部の拡充に伴い、短大のある小鹿キャンパスに新たな看護学部棟を建設するものです。

新棟には実習室や講義室のほか、教員の研究室が入り、看護の専門教育・研究の拠点となります。また、学生は基礎科目を谷田キャンパス、専門科目を小鹿キャンパスで学ぶ2キャンパス制となる予定で、平成26年夏の新棟完成後、駐輪場整備や機器の移設等の期間を経て翌平成27年4月から、本格的に新キャンパスでの教育がスタートします。



鍬入れの儀を行う本庶理事長



完成予想図

## 災害時の「食の安全など」について東北地方で調査

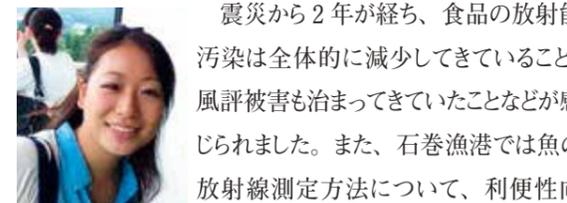


仮設住宅で福島大学生及び住宅の方々とともに

本学食品栄養科学部では昨年度に続き、8月22～25日に学生有志（2、3年生33名）と教員（5名）が、東日本大震災の被災地である宮城県や福島県に赴き、災害時における「食の安全・栄養管理」などに関する学外研修を行いました。4日間の行程で、福島県総合農業センター、石巻漁港、福島市仮設住宅、福島学院大学などを訪問し、試験研究の現場や現地の復興状況を学びました。

### 参加学生のコメント

学生代表 神田 悠（食品生命科学科3年）



震災から2年が経ち、食品の放射能汚染は全体的に減少してきていること、風評被害も治まってきていることなどが感じられました。また、石巻漁港では魚の放射線測定方法について、利便性向上のための研究開発が進んでいることが確認できました。さらに、仮設住宅では福島大学のボランティア団体の大学生が主催するイベント（流しそうめん等）のお手伝いを行い、住民の方々とお話する機会を得ました。「自分の家に早く帰りたい」という多くの方々の言葉が胸に刻まれました。放射能汚染の問題が一刻も早く解決し、被災者の方々がもとの生活に戻れることを強く望むとともに、今後の我々の使命が何かを学ぶことができた貴重な東北研修でした。



魚の放射線測定実習

仮設住宅でのイベントの手伝い

## 県大せんべいができました！

このたび、静岡県立大学の名前とロゴが焼印された「瓦せんべい」を製作しました。この商品は学生ホール2階の売店で販売しています。帰省のお土産等にぜひご利用ください。

〈販売価格（税込）〉  
12枚入り 525円  
27枚入り 1,050円



〈販売店・お問い合わせ〉  
学生ホール2階売店  
電話：054-262-7705

※季節によりご利用の急増で品薄の場合があります。

## 大学公式 Facebook ページと Twitter を開設しました！

大学の公式 Facebook ページと公式 Twitter を9月4日に開設しました。本学に関する様々なニュース・イベント情報や、学生生活などのキャンパスの様子について、広報誌や公式サイトでは伝えきれない本学の魅力を紹介しています。ぜひご覧ください。

### Facebook

<https://www.facebook.com/UniversityofShizuoka>

### Twitter

[https://twitter.com/shizu\\_kendai](https://twitter.com/shizu_kendai)



## 経営情報学部特別講演会 アベノミクスの現在までの成果と今後の課題

7月29日に「アベノミクスの現在までの成果と今後の課題」と題して、経営情報学部の授業の中で星岳雄先生（米国スタンフォード大学教授）をお招きし、特別講演会を開催しました。星先生はマクロ経済の立場から金融制度や金融政策を研究されており、世界的にも有名な著作を数多く書かれています。講演では、アベノミクスの3本の矢「金融緩和」「財政出動」「成長戦略」に対する自身の見解を述べられました。

星先生は講義の中で、アベノミクスは世界的には新しい経済成長政策ではないということ、株価上昇は将来への期待を反映したものであり、バブルに終わるかどうかは政策の結果しだいであると述べました。

また、政府が掲げる戦略市場創造プランについて触れ、170もの改革を同時に行うのは無理であり、4つか5つ程度に優先順位の高いものに絞っては始めるべきであること、財政出動とセットで、第四の矢（財政健全化）が必要であることを述べました。

講義は対話形式で行われ、講師が話すだけでなく、学生に対して講師から問いかけ意見を聞く双方向な授業となりました。講演後の質疑応答でも活発な質疑がなされ、学生にとってはスタンフォード式の白熱した授業を体験する機会となりました。



当日の講義の様子



学生との質疑応答の様子

## 国際関係学部 学生らの 英語学習法に関する研究論文が書籍化

国際関係学部のジョナサン・ディハーン准教授は、ゲームを言語学習に有効利用するというユニークな研究を行っており、楽しく効果的に外国語を学習・指導する方法の研究と実践に取り組んでいます。その取組みの一環として、2011年と2012年に渡り、学生とともに高校生を対象にした語学学習プログラム「Game Camp」を開催してきました。同プログラムは、ゲームのワークショップを通じて楽しく英語を学ぶ機会を高校生に提供するとともに、高校生をサポートする学生の卒業研究の調査対象にもなっていました。

この学生らの英語学習法に関する研究論文が、このたび書籍化されました。書籍はオンライン購入できるほか、大学附属図書館でも閲覧できます。



現在は新たなプロジェクトとして、学生が中心となり創設されたゲームの研究室「Game Lab（ゲームラボ）」が進行中です。本プロジェクトはゲームを通してリーダーと成り得るビジネス、社会、教育の知識、技能を学ぶという今までにない取り組みです。学生が児童館や静岡県立こども病院、養護施設などの地域の施設に赴き、子供たちやその家族、高齢者の方々と、ボードゲームやカードゲームなどの遊びを通して、ゲームがもたらす社会的、心理的、認知的効果を調査しています。

また、プロジェクトで得た研究調査結果を踏まえ、地元の玩具専門店や玩具メーカーにアプローチし、製品生産や市場戦略を支援する方法を模索したり、プロのゲームデザイナーに対して開発中のゲームのテスト運用やユーザー意見調査を持ちかけるなどの取り組みも行っています。プロジェクトの活動を通して、ゲームラボ独自の教育ゲームの開発と、静岡ビジネスプランコンテストへのエントリーを目指しています。

## オープンキャンパス 2013 開催

8月5日から10日までの5日間、オープンキャンパス2013を開催しました。

今年も高校生や保護者など、約4000名の参加者で賑わいました。学部・学生生活の紹介、在学生との懇談会、キャンパスツアー、模擬授業などを通して、本学の魅力が伝わるよう、各学部が趣向を凝らしたプログラムを実施しました。

参加者が学生と直接接することで、大学生活をよりイメージしやすいものとするため、食品栄養科学部では先輩と語るプログラムや個別相談受付を例年より拡大しました。国際関係学部では、社会貢献系サークルによるワークショップを行いました。また経営情報学部では、施設・ゼミ見学ツアーを学生が企画・運営しました。

更に今年度も、オープンキャンパスに参加できない入学希望者を対象とした夏季大学説明会を実施し、今年は昨年の二倍以上の約500名の方にご参加いただきました。

オープンキャンパスのアンケートでは、「学生、教員の対応が良かった」「絶対県大に合格しようと思った」など、たくさんの嬉しいお声をいただくことができました。



社会貢献系サークルによるワークショップ



大講堂オリエンテーション

## 静岡県の誕生日“県民の日事業”に参加

明治9年8月21日に今の静岡県が誕生したことにちなんで、県内各地で様々なイベントが催される「県民の日」に合わせ、本学では「環境科学研究所一般公開」と「夏休み県大ツアー」、小鹿の短期大学部では大学見学会を開催しました。夏休みを利用して、小中高生と保護者の方や、一般の方々に参加いただきました。

### 8月17日 環境科学研究所一般公開

楽しみながら科学に理解を深めてもらうことを目的とした本イベントには、200名の方が参加しました。スライム作りや、紫外線の計測体験など、12の研究室が趣向を凝らした実験と展示が好評で、参加者は環境・生物・工学など多彩なジャンルの科学に触れました。

また同日には、実験を通して環境問題を考える「夏休み親子環境教室」を開き、参加者は「地球温暖化」をテーマに二酸化炭素に関する実験に親子で取り組みました。



研究内容の紹介や県内の調査地点に関する説明に耳を傾ける参加者

### 8月21日 夏休み県大ツアー 2013

大学の施設見学や研究紹介や体験学習など、大学の醍醐味を詰め込んだツアーには85名の方が参加され、普段入る機会のない実習室で授業に使う設備を見学したり、留学生との交流で海外文化に触れたり、教員による研究紹介や実験など、本学の特色を出した見学を楽しんでいました。



留学生との交流でマンマの伝統的な化粧品を体験する参加者

## 体験してみよう!「病気を調べるくすりを創る」 「夏休みファーマカレッジ2013」開催

県内高校生を対象とした「夏休みファーマカレッジ」が、「病気を調べるくすりを創る」をテーマに8月8日、9日の2日間にわたって開催されました。

この催しは、高校生に、大学の最先端研究に用いられている設備、機器を使って薬学の最新の知識と技術に触れながら、薬学の世界を体験する機会を提供するもので、15回目を迎えた今年は77名の高校生が参加しました。

高校生たちは、白衣に身を包み、「薬の成分をはかってみよう」、「植物から有用な成分を取ろう」など9の体験テーマに分かれて、教員や大学院生の指導の下、機器や器具を実際に操作しながら様々な実験に取り組みました。

最終日の報告会では、これらの実験結果がテーマごとに発表され、生徒同士で熱心な討論が行われました。

今回の参加者の中から、ひとりでも多くの生徒が将来薬学の世界に進み、次世代の新薬開発や高度医療を担う人材に成長してくれることを期待しています。



報告会の様子



真剣に実験に取り組む高校生

## 食品栄養科学部 2013 キッズ・ラボ ～食塩水を用いた虹作りに挑戦～

食品栄養科学部では、より多くの子供たちに「科学」に親んでもらえるよう、実験体験ができる科学教室(キッズ・ラボ)を開催しています。昨年度に引き続き、本年度もしずおか科学月間のイベントの一環として、7月27日(土)にディスカバリーパーク焼津天文科学館にて「静岡県立大学食品栄養科学部 2013 キッズ・ラボ」を開催しました。

当日は、小学3～6年生を中心に38名とその保護者の方が、じゃがいもを使った飽和食塩水と水の見分け方、密度の違う食塩水を用いた虹の作り方などを実験しました。子供たちは、特にじゃがいもが水と飽和食塩水の中間に浮く実験とその原理を利用した食塩水を使った虹作りに関心を持ち、興味深そうにうなずいたり、実験講師からの問いかけに元気良く答えたりしました。今後も、子供たちが「科学っておもしろい」と感じてくれるような体験学習の場を提供していきたいと考えています。



虹の作り方に興味津々の子供たち



実験講師とできあがった食塩水の虹

## 第23回 星・木苗杯を開催

7月6日、食品栄養科学部恒例のテニス大会「星・木苗杯」が今年も開催され、参加した教員と学生がともに汗を流しました。

### 実行委員

青木亮裕 安藤佐紀子 柴田考世 藪田拓実

(薬食生命科学総合学府食品栄養科学専攻博士前期1年)

当日はうだるような暑さでしたが、怪我人もなく最後まで試合を行うことができました。参加者44名中、男子では臨床栄養学研究室の吉田卓矢助教、女子では食品衛生学研究室の平井央子さんが優勝し、トロフィーと記念品が授与されました。

試合中は皆笑顔に溢れ、とても楽しそうにプレイしていたので、実行委員一同とても嬉しく思っています。

食品栄養科学部は、教員や学生が一同に会し、交流する場が5学部の中でも特に多いので、今後もこのような機会を大切に、人と人のつながりを深めていきたいと思えます。



トロフィーを手に笑顔の吉田さん(左)と平井さん(右)、優勝を称える木苗学長(中央)

## 「サイエンスフェスティバルる・く・る」に 食品栄養科学部の学生と教員が参加

8月10日・11日に静岡科学館る・く・るで開催された「サイエンスフェスティバル in る・く・る 2013 青少年のための科学の祭典」に、食品栄養科学部(大学院食品栄養科学専攻)の教員と学生が参加しました。

サイエンスフェスティバルとは、教員や科学愛好家等

が、子供たちに実験や工作を通じて、科学の楽しさや大切さなどを紹介する体験型イベントです。

本学からは教員17名と学生51名が講師として参加し、「身近な食品やいきもので研究してみよう!」のテーマのもと、ワークショップスタイルの展示を行いました。

ブドウジュースに酢や洗剤等の身近にあるものを加えて色の変化を観察する実験や、重曹とクエン酸で作った二酸化炭素でロウソクの火を消す気体の実験、キロショウジョウバエの観察、植物の受粉の様子の観察の4つのワークショップを行い、それぞれの展示を担当した講師達は、子供たち一人一人に科学の面白さが伝わるよう、丁寧な指導を行いました。

会場全体で2,000人以上が訪れ、食品栄養科学部のブースにも両日ともに600名近い来場者に足を運んでいただき、実験を楽しむ子供たちと教員や学生の間、科学を通じて温かい交流が生まれました。

日頃は教員に教わる立場にいる学生が、教員と一緒に子供たちに実験の指導を行うことで、教えることの難しさと学びの大切さを実感し、科学の楽しさを改めて知る機会となったようで、学生生活の中で思い出に残る良い体験ができたとの声が数多く聞かれました。



当日参加した学生と教員



展示ブースの様子

# 学生の日々

学生たちのサークル情報・課外活動をご紹介します。



## 「子ども・若者支援地域ネットワーク形成のための研修会事業」第一回講演会を開催

若者エンパワメント委員会  
鳥谷部 綾香(経営情報学部3年)

7月28日に、大学公認サークルYEC(若者エンパワメント委員会)主催で、「子ども・若者支援地域ネットワーク形成のための研修会事業」第一回講演会が行われました。

当日は、YECとして運営に携わっていました。第一回講演会のテーマが「市民が社会のチカラになるためには」であったため、名古屋大学教授の田村哲樹氏になぜ市民社会参画が必要なのか、市民協働に取り組んでいる牧之原市政策協働部地域政策課長の加藤彰氏に市民が社会参画している事例をお話いただきました。講師の方々のお話に、真剣に耳を傾けて聞いている姿が印象的でした。

基調講演後、「市民が社会のチカラになるために、私たちに何ができるだろう」というテーマで、YECによるワークショップを行いました。講師の方々にも参加していただき、たくさんの意見を交わす時間となりました。

現在、YECでは次回講演会に向けて準備を始めています。10月13日(日)に行われる第三回講演会は「学校教育における社会参画—シチズンシップ教育と学校民主主義—」というテーマで、NPO法人Rightsの小林庸平氏と北星学園余市高等学校教員の田中亨氏をお招きして、ご講演いただきます。この機会にぜひご参加ください。



## 子どもたちに異文化とのふれあいを

リトルワールドキャンプ実行委員会  
代表 丸山 めぐみ(経営情報学部3年)

こんにちは、リトルワールドキャンプ実行委員会です！  
私たちの住む静岡県は在日外国人の多い県として知られていますが、実際に関わる機会は少なく、お互いの文化を十分に理解できていないのが現状です。そこで私たちはさまざまな文化をもつ人々が共に生きることができる静岡県をつくる為に、毎年夏に子ども達を対象とした「多文化共生キャンプ Little World Camp」を企画・運営しています。

今年は富士市立少年自然の家で10回目のLittle World Campを開催し、多くの子ども達が参加してくれました。キャンプでは初めて会う子ども達の緊張をほぐす“はじめましての

会”、外国の料理を協力して作る“多国籍料理作り”、お互いの文化を知り合う“室内レクリエーション”など自然と子ども達が仲良くなれるようなプログラムを行いました。

真剣に話し合える仲間と作り上げたキャンプを通して国籍に関係なく子ども達が徐々に仲良くなっていく様子を間近で見ることの嬉しさ、準備が大変だからこそ感じられる達成感には言葉に出来ないほどです。

このキャンプに参加した子ども達が全員笑顔で帰り、異文化との関わりを意識していけるきっかけを提供していけるようにこれからもメンバーと頑張っていきます。

# 国際交流



## 米国カリフォルニア州立大学サクラメント校と大学間交流協定を締結



このほど米国のカリフォルニア州立大学サクラメント校と大学間交流協定を締結し、9月13日に同校で締結の調印式を挙りました。本学と大学間交流協定を締結した大学は、これで21校目となります。

同校とはこれまで平成21年に国際関係学部が学部間協定を締結、学生の語学研修を基本とした交流を行っており、今回の大学間協定への引き上げにより、交換留学制度など学生や教職員が相互に研修できるようなプログラムが期待できます。

カリフォルニア大学デービス校・パークレー校との交流  
本学では、カリフォルニア州に所在する大学では、カリフォルニア大学パークレー校とデービス校とも大学間交流協定を締結しています。

カリフォルニア大学は10大学からなる米国で最大規模

の総合州立大学群であり、デービス校は1905年にカリフォルニア大学の農業学校として設置された背景から、特に農業関連分野の研究は世界でもトップレベルで、国内外から高く評価されています。また、大学院の教育課程を通じて、社会に役立つ研究者養成の試行が進んでいます。

一方でパークレー校は、カリフォルニア大学の発祥校であり、ノーベル賞受賞者やピューリッツァー賞受賞者の教授が数多く在籍し、米国科学をリードするトップ大学のひとつです。

今春には、野口博司薬学部長と小林裕和薬食生命科学総合学部長が両校にてセミナーを実施し、植物生物学分野の教員・研究者・学生に対して独自の研究や薬食融合形成について紹介し、あわせて、大学院教育における研究室ローテーションや博士課程研究基礎力試験(qualifying examination: QE)等、米国のシステムの有効性について議論しました。

## 現代韓国朝鮮研究センターがソウル大学日本研究所と交流協定を締結

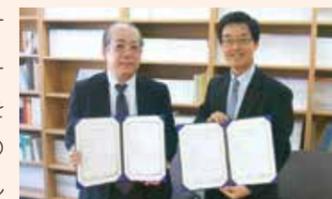
9月3日、大学院国際関係学研究科附置の現代韓国朝鮮研究センターは、韓国のソウル大学日本研究所と部局間交流協定を締結しました。センターとしては、韓国・釜山にある東西大学日本研究センターとの平成21年の交流協定締結に続くもので、本学と国際交流協定を結んだ韓国の大学は、平成18年の延世大学との大学間交流協定を含め3大学となりました。

ソウル大学は、韓国国内で最も古い歴史を持ち、学生数約3万人、専任教員数2,000人を超える最大の国立総合大学で、韓国社会で影響力のある人材を数多く輩出しています。日本研究所は、韓国における日本研究の活性化と日韓相互理解の増進を目標として2004年に設立されました。その活動が評価され、同大が選定する「人文社会系列研究所総合評価1位」を獲得しています。

両機関の教授陣は、これまで国際会議や研究調査

を通じて交流を続けてきましたが、昨年11月に学術・研究交流協定締結の機運が浮上したことをきっかけに、両機関での公開シンポジウムや特別講演開催の折に協定案に関する協議を重ね、現代韓国朝鮮研究センター長の伊豆見元教授がソウル大学を訪れた9月3日に、締結に至りました。

本協定には、①教授、研究員及び学生の交流、②研究の協力と研究結果の相互提供、③出版物及びその他の情報の相互提供、④その他の支援サービスの相互利用などが盛り込まれています。本センターでは今回の締結を機に、学生・教員の学術交流を促進していきます。



協定締結式(於:ソウル大)での伊豆見センター長(左)とソウル大日本研究所の朴基熙所長(右)



## リール政治学院派遣教員による連続講義

本学と大学間交流協定を結んでいるフランスのリール政治学院から、交換教授として派遣されたギヨーム・デュセヌール講師が、7月8日から10日にわたり連続講義を行いました。

当日は連続講義の他、講演会、合同演習が実施され、フランス大統領選挙とオランダ政権に関するテーマをはじめ、EU 諸国や米国オバマ政権の外交等、国際政治に関する多岐に渡る内容となりました。

本講義のプログラムはいずれもデュセヌール講師が学生のために特別に用意したもので、英語で実施された講義も、要点が資料にまとめられ、英語の聞き取り能力が十分ではない学生にも配慮された講義内容となりました。

リール政治学院との交流協定は今年で9年目を迎え、本学からも毎年交換留学生が派遣されています。近年は、交換単位だけでなく、留学生としての修了免状CEPを取得して帰国する学生も増えています。今回の講義ではじめて英語で講義を受けた学生も多く、留学を考える良い機会となりました。



講義中のデュセヌール講師

## 留学体験記

オヌル・カナン  
(トルコ ボアジチ大学からの交換留学生)

学部・学科 国際関係学部

留学期間 2012年9月～2013年8月

### ● 留学のきっかけは日本文化への関心

子供の頃に日本のアニメを見たのが日本に興味を持ったきっかけです。日本文化をもっと知り、日本企業で働きたい

と思い、大学で日本語を勉強しました。日本へ留学して授業を受けてみるまでは、少し不安がありましたが、実際に受けてみると先生方はとても親切で、そのような心配は全く無用でした。授業のおかげで日本の文化や歴史、経済について多くを学ぶことができました。

### ● 日本で印象に残った思い出

まず、バスや電車が時刻表通りに動くことです。皆がそれに沿って行動します。つまり人も物もすべて時間に正確で、これは他の国では見られないことです。次に、皆がとても礼儀正しいことです。目が合うと会釈をしたり、微笑みあったりします。さらに、日本人はとても親切です。

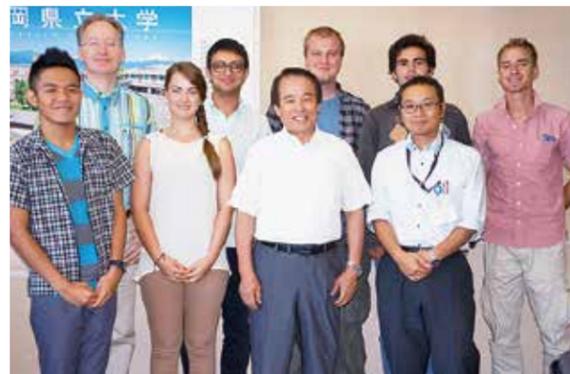
以前一人で旅行した時も、困ったときはいつも誰かが助けてくれるので、不安はありませんでした。

### ● 将来また日本を訪れたい

将来の夢は、海外出張で日本に行けるような日本企業で働くことです。この1年、忘れることのできない経験をたくさんすることができ、親友もできました。日本語を選んだことは今までで最善の決断だったと思います。交換留学生として静岡県立大学に来て本当に良かったです。



東京を訪れたときの写真



学長室での記念写真。他の国からの留学生と木苗学長、教職員の方とともに

## 漆畑 有理枝

学部・学科 国際関係学部国際関係学科

学 年 2年

大 学 ロジャー・ウィリアムズ大学

留学期間 2013年8月(3週間)

### ● 文化の違いを深く学び、ネイティブスピーカーと英語でコミュニケーションしたい

ロジャー・ウィリアムズ大学は、本学が交流協定を結ぶ大学としては初めてのアメリカ東海岸に所在する大学であり、また、留学生もとても少ない大学だということで興味を持ち、語学研修に参加しました。

私にとってこの留学には2つの目的がありました。1つは、アメリカという日本から遠く離れた、普段とはまったく異なる環境での生活を通して、アメリカと日本の文化の違いについて深く学び、自分の抱いていたアメリカ文化に対するイメージは正しかったかを自分の目で確かめることでした。

もう1つは、日本語がまったく通じない、異文化に囲まれた中での現地のネイティブスピーカーとの英語コミュニケーションの実践でした。

### ● 語学実践の授業で様々な街を訪問

クラスルームでは、アメリカの方言や文学について学びました。また座学だけでなく、フィールドトリップと称した校外授業もありました。これは、街の人々との英語コミュニケーションの実践を目的としていて、ロードアイランド郊外のプリストル周辺のほか、ニューヨークやボストンなどの大都市にも実際に赴き、その街の歴史や産業について学ぶことも多かったです。同じアメリカであっても、大都市と郊外では文化にとても大きな違いがあることを実感しました。

### ● 留学中の印象に残るエピソード

週末には友達数人とボストンへ行きました。フィールドトリップの授業では、いつも大学が出しているシャトルバスを目的地まで行っていたので、自分たちだけでバスと電車を乗り継ぐのは思った以上に大変でした。

大学のあるプリストルからボストンまでは2時間程で行けるのですが、バスがまったく来なかったり、地下鉄が満員で乗れなかったりと、4時間もかかってしまいました。とても大変でしたが、最終目的地であったハーバード大学に到着したと

きはとても嬉しかったです。良い経験になりました。

### ● 語学学習に対するモチベーションが上がった

海外で英語に囲まれた生活をするなかで、言いたいことがあっても何と表現すればいいかわからず、何度も悔しい気持ちになりましたが、そのたびに英語の勉強に対するモチベーションも上がりました。これからはこのモチベーションを維持しながら、TOEFL などに向けて英語の勉強を続けていきたいです。また、機会があれば、在学中にもう1度海外へ留学してみたいと思っています。



ハーバード大学にて

### ● 留学を考えている人へ

ロジャー・ウィリアムズ大学およびロードアイランドはのどかで本当にいいところです。また、私たちを指導してくださったクリスティン先生も素晴らしい先生でした。アメリカ・ニューイングランド地方の郊外で、異文化について深く学び、じっくり英語を磨きたいという人には最適の場所だと思います。興味がある人はぜひ研修に参加してみると良いと思います。



現地の学生と大学にて



研修最終日・修了証明書を手に



## 看護学部／看護学研究科 母性看護学・助産学研究室

太田 尚子 教授 谷口 通英 准教授  
長田 知恵子 講師 山田 貴代 助教  
鈴木 恵 助教 高木 静 助教  
■ 在籍学生数:学部生10名 大学院生9名

学部も大学院も学生同士の学び合いを大切にしているため、ゼミではディスカッションが中心

### 女性の生涯に寄り添う看護師・助産師を目指して

思春期や更年期の健康支援、妊娠中や出産時の母子のケア、産褥・育児期の家族発達支援や育児相談など、女性の生涯にわたっての健康支援や、新しい生命の誕生に関わる母子や家族へのケアについて、理論や技術を追求する看護学領域である母性看護学・助産学。本学看護学部の母性看護学領域と大学院助産学分野には、看護師・助産師を目指して、最良なケアを実践するための論拠となる真実を探索しながら、母子とその家族へのケアについて学ぶ学生が所属している。母性看護学には3つの卒業研究ゼミがあり、各ゼミでの研究

発表に加え月に一度合同ゼミが開かれ、学生が積極的に意見を交わす。太田尚子教授は指導に当たり、学生が自らの力を最大限に発揮できる支援を心がけていると話す。「科学的根拠に基づくケアと人間的なケア、自然な出産と医療介入が必要なハイリスクの出産、実践と研究の統合、女性たちとのパートナーシップなど、バランスのとれたケアや研究ができる看護師や助産師を育てたいと考えています。そのため、学生の個性を尊重し、自発性や学生同士のディスカッションを促すようにしています。」

### 科学的根拠に基づいたケアを行う能力を育てる

少子高齢化社会、母親の育児不安の増加、虐待などの社会的問題により、助産師の重要性はますます高まっており、子どもを産み、育てる家族を支える専門職として、自律して診断やケアを行える助産師の育成が重要課題であると太田教授は話す。

「本学大学院の助産師養成課程で重視しているのは、“エビデンス”、つまり、研究論文を吟味し、その結果を臨床で活用していく科学的根拠に基づいた助産ケアを行う能力を養うことです。例えば助産技術の授業では、学生自身がエビデンスに基づく方法を調べて助産技術手順を作成したり、課題解決型学習（PBL）によって母子や家族のケア計画を立案していきます。また、実習では出産の介助はもちろんのこと、特に妊

婦健診を重視しています。座学と実習を併行して行い、実習での経験を振り返ることで学びを深めるという成人教育学の枠組みを導入しているのは、本学大学院での助産師教育の最大の特徴です。さらに、助産学と同時に修士論文に取り組むことで、助産ケアを研究思想的に捉えられる力を身につけ、新しいケアを開発したり、変革する基礎的能力を養うことができます。」

妊娠・出産とは、母子だけでなくその家族、ひいては社会全体にとっても重要なことであり、看護師・助産師は人に寄り添う仕事である。科学的根拠に基づき自らの思考で行動する知識や技術を養うことにより、女性を身体的、精神的、社会的に支え、看護の現場で活躍することが期待される。

### 学生の声

#### “意識の高い仲間と日々研究に励んでいます”



➡ 学部4年生 相澤千尋さん

母性看護学実習でお産に立ち会った際に、「親となる身でありながら妊娠・出産を間接的にしか体験できない男性が、父性を高めていくプロセスと影響する要因が知りたい」と考え、この研究室に進むことを決めました。私のゼミはモチベーションの高い学生が多く、切磋琢磨しながら研究を進められます。定期的で開催される合同ゼミでは、3つの母性看護学ゼミの先生方や学生と意見交換をすることで、多角的な視点で自分の研究を見つめ直し、他の学生の研究を学べる学習環境が魅力的です。将来は大学院に進み確かな実践力と研究的思考を身につけ、生涯にわたって女性に寄り添い共に歩める助産師になりたいです。

#### “応用力や広い視野が身につくカリキュラムです”



➡ 修士課程1年 長坂愛里さん

私は女性とその家族が、安全で、安心して妊娠・出産・育児ができる支援を提供できる助産師になりたいと思っています。そのためにはその方に適した効果的なケアを実践できる力が必要不可欠です。助産学研究室には課程の2年間を通して、一つひとつのケアのエビデンスを自ら積極的に学び、確実な実践へと結びつけていけるようなカリキュラムが整っているので、知識や技術の習得だけでなく応用力も身に付けられると思います。また、学外の先生の講義も多くあるため視野が広がります。ハードなカリキュラムですが、先生方も親身になって指導して下さるため、仲間と共に充実した日々を過ごしています。将来は、大学院で身に付けた力を発揮し、生まれ育った静岡の病院で助産師として働きたいと思っています。

## 産学民官連携

本学が取り組む産学官連携活動による研究成果やイベント等の情報をご紹介します。

### 研究成果報告

## 超小型 多目的電気乾燥庫 「ドラッピーmini」を共同開発

食品栄養科学部  
新井映子 教授

食品栄養科学部の新井映子教授と静岡製機株式会社が、超小型多目的電気乾燥庫「ドラッピーmini」を共同で開発しました。

年間1,900万トンともいわれ、なお増え続けている食品産業廃棄物0食品リサイクル法対象外の農業の現場でも、収穫された野菜や果物の20～30%は、規格外品や過剰収穫で廃棄されています。こうした食材を有効利用できることから、気流式乾燥機の特長評価と用途展開に取り組みました。

天日干しに比べて早く乾燥でき、鳥や虫による被害や、紫外線による変色が防げます。水で戻した時の復元性も良く、食品本来の味や香りが濃縮されて濃厚となり、高品質なドライ製品となります。また、煮物に使用すると、生よりも煮崩れが少ないなどの利点もあります。一方、フリーズドライに比べると外観や復元性はやや劣りますが、冷凍による細胞壁の破壊が無いので、水で戻した時の歯ごたえや食感が良く、新たな調理用食材や保存食として優れたものができることが判りました。



ドラッピーmini



右がドラッピーminiでミニトマトを乾燥させたもの

製品のお問い合わせは

静岡製機株式会社 農機企画課 (0538) 23-2822 静岡県袋井市山名町4-1

# 活躍する卒業生

のびのび研究に打ち込める  
解放的な職場です



お名前 加藤 竜也さん  
卒業学部 大学院生活健康科学研究科  
(2012年3月1日卒業)  
勤務先 田辺三菱製薬(株)研究本部  
安全性研究所

## Q1. どんなお仕事をされていますか?

製薬企業の研究員として、医薬品候補化合物の安全性、特に遺伝毒性 (DNA 損傷性や突然変異誘発性など) の研究に携わっています。

ます。遺伝毒性を有する化合物の多くは癌を引き起こすことから、創薬研究における遺伝毒性試験の結果は非常に重く考えられています。そのような責任ある仕事に携わるとともに、周囲の先輩研究員の方々と日々サイエンスについて討論でき、とても刺激的な毎日を送っています。

## Q2. 大学生活はどんなことに力を入れていましたか?

私は学部4年生から博士課程まで、一貫して化学物質の遺伝毒性について研究してきました。修士課程の際に共同研究でお世話になった外部研究所の先生にお誘い頂き、博士課程の3年間は外部研究所に出向し、そこでより深く遺伝毒性について学ばせて頂きました。大学や研究所で得た経験をより多くの人のために活かしたいと思い、創薬研究における安全性評価に携わりたいと強く思うようになりました。

## Q3. 静岡県立大学に入学してよかったと思うことはありますか?

私のやりたいことや考えを尊重して下さる先生方に会えたことです。特に研究室配属後の大学生活では、やらされるのではなく、自ら考えて行動する機会を与えて下さる一方、迷っ

た時には的確に進むべき道を示して下さいました。先生方とは大学に立ち寄ったときや学会でお会いした際など、未だに良い付き合いをさせて頂いています。

## Q4. 今後の目標について教えてください。

創薬研究者にとっての最大の目標は、担当した医薬品を病気で苦しむ患者さんに一日でも早く届けることです。私自身はまだ研究者として未熟ですが、いつか担当した薬で患者さんの助けになりたいと思っています。今は一日でも早く一人前の研究者となり、自ら安全性研究の方針を提案できるようになるため日々勉強中です。

## Q5. 在学生にひとことメッセージをお願いします。

大学生活を通してできた友人は一生の宝物です。勉強はもちろんですが、卒業してからも気軽に会って昔話ができるような友人をたくさん作ってください。そんな友人たちと自由な時間の中で多くの思い出が作れることは、大学生の特権だと思います。

# 教員人事、新規客員教授・准教授の紹介

## ◆採用 9月1日付け

飯塚 真樹	看護学部	助教
-------	------	----

## 10月1日付け

糸川 紅子	看護学部	講師
本間 一江	食品栄養科学部	助教
江上 寛通	薬学部	助教
田中 秀則	薬学部	特任助教
池内 和忠	薬学部	特任助教

## ◆昇任 6月1日付け

林 久由	食品栄養科学部	准教授
------	---------	-----

## 9月1日付け

富安 眞理	看護学部	准教授
濱井 妙子	看護学部	講師

## ◆退職 6月15日付け

井川 貴詞	薬学部	助教
-------	-----	----

## 7月31日付け

小菅 和仁	薬学部	講師
-------	-----	----

## 9月11日付け

加藤 安宏	薬学部	講師
-------	-----	----

## 9月30日付け

五十里 彰	薬学部	准教授
高木 邦明	薬学部	准教授

## ◆新規客員教授・准教授の紹介

高松 昭司	教授	独立行政法人医薬品医療機器総合機構	H25.7.1 ~ H28.3.31
吉川 雅之	教授	京都薬科大学名誉教授	H25.8.1 ~ H27.3.31

\*各受賞の詳細については本学公式サイトニュース&トピックスからご覧いただけます。

# 受賞一覧

## 教員



## ◆39th International Symposium on High-Performance-Liquid-Phase Separations and Related Techniques Best Poster Award

薬学部 轟木 堅一郎 准教授

薬学部生体機能分子分析学分野の轟木堅一郎 准教授が、6月にオランダ・アムステルダムで開催された39th International Symposium on High-Performance-Liquid-Phase Separations and Related Techniquesにおいて、Agilent Technologies Best Poster Awardを受賞しました。



## ◆2013年度日本毒性学会 技術賞

薬学部 尾上 誠良 准教授

薬学部薬物動態学分野の尾上誠良准教授が、2013年度日本毒性学会技術賞を受賞しました。日本毒性学会技術賞は我が国における毒性評価技術の開発において、卓抜な功績を挙げた研究者に贈られます。受賞テーマの「光毒性試験におけるROSアクセシの開発」は、現在注目されている副作用の一つである光毒性に関して、物理化学的特性を指標として予測する新規手法を開発し、さらに医薬品の体内動態情報を組み合わせることで高精度な光毒性予測を可能としました。日本製薬工業協会、国立医薬品食品衛生研究所、医薬品医療機器総合機構と共同で本評価系を国際ガイドラインに提案し、現在ICHガイドライン(S10)に暫定的に採用されています。6月17から19日の第40回日本毒性学会学術年會において授賞式が執り行われ、ワークショップ「ICHにおける光安全性評価ガイドラインの取り組みについて」にて研究成果の一部が発表されました。

## ●受賞テーマ

「光毒性試験におけるROSアクセシの開発」



## ◆国際心血管薬物療法学会 若手研究者奨励賞

薬学部 刀坂 泰史 助教

薬学部分子病態学分野の刀坂泰史助教が、6月イタリア・ローマで開催された第18回国際心血管薬物療法学会 (ISCP) において、脂質異常症治療薬スタチンによる新たな心不全治療薬の研究について発表し、若手研究者奨励最優秀賞を受賞しました。この賞は、心血管疾患治療の進歩に寄与する優秀な演題に贈られるものです。

## ●発表演題

「Pitavastatin suppresses cell hypertrophy more than rosuvastatin in cultured cardiomyocytes」

## ◆第17回日本地域薬局薬学会年會 優秀発表賞

薬学部 谷澤 康玄 助教

薬学部薬局管理学分野の谷澤康玄助教が、6月30日に東京で開催された第17回日本地域薬局薬学会年會において、優秀発表賞を受賞しました。

## ●発表演題

「平成24年度 静岡県立大学薬学部 病院・薬局実務実習報告会」

発表内容は共同研究の成果をまとめたものです。

本学 薬学部 薬局管理学分野：前田利男教授

同 臨床薬理学分野：賀川義之教授、宮崎靖則准教授、石井康子講師、内野智信講師

同 臨床薬効解析学分野：伊藤邦彦教授、林秀樹講師、井上和幸講師、辻大樹助教

同 医薬品情報解析学分野：山田浩教授、小菅和仁講師

管理栄養士にしかない視点で  
患者さんの栄養管理を  
行っています



お名前 藤本 沙紀さん  
卒業学部 大学院生活健康科学研究科  
(2010年3月1日卒業)  
勤務先 藤枝市立総合病院

## Q1. どんなお仕事をされていますか?

私は現在、許可病床数594床の急性期病院で働いています。給食管理 (食数管理・発注など) と栄養管理 (栄養指導・計画書作成など) に関わっており、昨年度からはNST (栄養サポートチーム) 活動のメンバーにもなっています。

栄養状態に問題点がある患者さんについて他職種の方と改善策を考えていきますが、管理栄養士にしかできない視点で提案していくことややりがいを感じています。複雑な病態に戸惑うこともありますが、患者さんやご家族の希望に沿ったケアをしていくことを一番考えています。

## Q2. 大学生活はどんなことに力を入れていましたか?

学部4年生から博士前期課程の計3年間に栄養生理研究室で過ごしました。糖尿病に関する基礎研究を行いながら、半年間は病院や施設での管理栄養士の実務研修も受けさせていただき、充実した生活を過ごせました。学会発表は4回経験しましたが、タイで開催された国際学会に参加できたことも印象に残っています。考える力と実践力、どちらも学ぶことができたので、現在も、検討課題を見つけたり学会や講演で発表をする際に役立っていると感じます。

## Q3. 静岡県立大学に入学してよかったと思うことはありますか?

食品栄養科学部・生活健康科学研究科ともに、少人数で同級生や先輩・後輩との関わりが強く、向上心のある仲間と良い関係を築けたことです。また、先生方も親身に指導して下さい、卒業して3年以上たった現在でも相談に乗っていただいたり新たな情報を教えていただいたりと大変お

世話になっています。

## Q4. 今後の目標について教えてください。

NST業務を行っている、疾病の知識や栄養管理に関する最新の知見についてまだ理解が足りないと感じることがあります。他職種からも認められる管理栄養士になることを目標として、知識を増やすことだけでなく、それを「伝える力」も伸ばしていきたいと思っています。常に勉強をしていく心と忘れず、学会発表や論文投稿にチャレンジする機会を増やしていきたいです。

## Q5. 在学生にひとことメッセージをお願いします。

学生生活を一生懸命、興味を持ったことにチャレンジして過ごせば、就職してからの自信につながると思います。部活・趣味など勉強以外のことも楽しんで良い思い出を作っていく中で、自分の適性を考えていくことも大事だと思います。大学で出会う人達とのつながりを大切に、大学生活を楽しみながら自分の将来を考えていってください。



教員

◆日本薬学会東海支部 平成25年度学術奨励賞受賞

薬学部 関 俊哲 助教  
高橋 忠伸 講師、井川 貴詞 助教(現・大阪大学)

薬学部教員の生体機能分子分析学分野 関 俊哲 助教、生化学分野の高橋 忠伸 講師、元・本学薬学部教員の医薬品創製化学分野 井川 貴詞 助教(現・大阪大学)が、日本薬学会東海支部 平成25年度学術奨励賞を受賞しました。この賞は、同支部会員(3年以上)の大学に所属する40歳未満の若手研究者の中から、薬学またはその応用に関する優れた研究に対し与えられるものです。受賞者は、7月6日に名城大学で開催された第59回日本薬学会東海支部総会・大会において、受賞講演を行いました。

●受賞テーマ

関 俊哲 助教  
「ヒト爪低分子代謝物の高感度分析法の開発及び慢性疾患診断への応用」  
高橋 忠伸 助教  
「ウイルス感染における糖鎖の機能解明」  
井川 貴詞 助教(現・大阪大学助教)  
「フェノール類から多置換芳香族化合物の効率的合成」

◆OMCOS-17  
IUPAC Poster Prize

薬学部 小西 英之 助教

薬学部 医薬品化学分野の小西 英之 助教が、7月28日から8月1日に米国フォートコリンズで開催された17th International IUPAC Conference on Organometallic Chemistry Directed Towards Organic Synthesis (OMCOS-17)において、IUPAC Poster Prizeを受賞しました。この賞は、有機金属化学の研究者が多数参加する同学会において、優れたポスター発表を行った研究者に対し与えられるものです。

●発表演題

Aryl Formates as CO Surrogates for Practical Pd-Catalyzed Carbonylation

発表成果は、静岡県立大学薬学部医薬品化学分野の眞鍋敬教授、松原美香さん、第一三共株式会社の上田剛さんとの共同研究によるものです。



◆クリタ水・環境科学研究優秀賞

環境科学研究所 三宅 祐一 助教

環境科学研究所の三宅祐一助教が、「クリタ水・環境科学研究優秀賞」を受賞し、8月30日に都内で開催された公益財団法人クリタ水・環境科学振興財団助成金贈呈式において受賞講演を行いました。この賞は、公益財団法人クリタ水・環境科学振興財団が過去に助成を行った研究者の中から、助成終了後の研究成果、論文発表、社会貢献活動等において顕著な成果をあげている研究者に対して贈られるものです。今回の受賞は、三宅助教が平成21年度に助成を受けた「高生態蓄積性フッ素化合物PFOSを含んだ泡消火剤使用による水環境影響評価とヒトの高懸念曝露シナリオの推定」に関する研究業績を表彰するものです。



学生

\*学生の学年は受賞当時のものです。

◆第73回分析化学討論会  
若手ポスター賞

大学院薬食生命科学総合学府  
修士2年  
林 美香さん

5月18から19日に北海道大学で開催された、日本分析化学会主催 第73回分析化学討論会において、大学院薬食生命科学総合学府 食品栄養科学専攻 修士2年生の林 美香さんが、若手講演において優秀な発表を行った研究者に贈られる若手ポスター賞を受賞しました。同講演には、理・工・農・医・歯・薬学・食品などの領域から130名近い若手研究者が参加し、幅広い研究分野の中から林さんをはじめ5人の研究発表が受賞対象となりました。

●発表演題

「渋味物質のタンパク質凝集能と細胞膜結合能の評価法 (林 美香、安井美奈、加藤大地、中山 勉、石井剛志)」



◆日本DOHaD研究会 優秀演題賞

大学院薬食生命科学総合学府  
修士2年  
山田 真実さん

大学院薬食生命科学総合学府 食品栄養科学専攻修士2年生の山田 真実さんが、6月7日から8日に厚生労働省戸山研究庁舎(国立健康・栄養研究所)で開催された第2回日本DOHaD研究会において、優秀演題賞を受賞しました。この賞は、「疾病および健康は胎生期を中心とした極めて初期にその素因が決定される」というDOHaD説をめぐる研究の進展に寄与する優秀な演題に贈られるものです。本研究会には、医・薬・栄養・環境・農・理などの幅広い研究分野の中から山田さんをはじめ3人の研究発表が受賞対象となりました。

●発表演題

「エピゲノム制御因子 Brd4 による脂肪細胞における脂肪蓄積の制御と出生後の発育との関連 (山田真実、望月和樹、合田敏尚)」



◆BMAS2013  
ベストプレゼンテーション賞

大学院薬学研究科  
博士後期課程3年 筒井 陽仁さん

8月2・3日に昭和大学で開催された第26回バイオメディカル分析科学シンポジウム(BMAS2013)において、大学院薬学研究科 博士後期課程3年の筒井 陽仁さんが、ベストプレゼンテーション賞(星野賞)を受賞しました。受賞者は、ポスターセッションとオーラルセッションから1名ずつ選ばれ、筒井さんはオーラルセッションの部で、昨年に続き連続の受賞となりました。

●発表演題

「アルツハイマー病脳のLC-MSによるメタボローム解析」

本学薬学研究院生体機能分子分析学、名古屋市、福祉社病院との共同研究の成果です。



◆The 5th Asian Arden  
Conference 2013 Best  
Poster Award

大学院薬学研究科 博士後期課程3年  
安藤 英紀さん

大学院薬学研究科博士後期課程3年の安藤英紀さんが、8月5・6日に開催されたThe 5th Asian Arden Conference 2013において、「Best Poster Award」を受賞しました。国際学会である同学会では、ポスターセッションの中から、研究内容・研究発表・質疑応答を総合的に評価し、数名が受賞者として選ばれます。安藤さんは、その受賞者の一人として選出されました。

●発表演題

「Functional cytoplasmic delivery of microRNA by use of polycation liposomes」

大阪大学大学院 医学系研究科・名古屋工業大学大学院 工学研究科との共同研究の成果です。

◆PPF2013 若手研究者奨励賞

大学院薬学研究科 博士後期課程3年 筒井 陽仁さん

8月29・30日に静岡市内で開催された、日本薬学会物理系薬学部会主催の第11回次世代を担う若手のためのフィジカル・ファーマフォーラム2013(PPF2013)において、大学院薬学研究科博士後期課程3年の筒井陽仁さんが、若手研究者奨励賞を受賞しました。筒井さんは、同部会主催のBMAS2013での受賞に引き続いたの受賞となりました。

●発表演題

「乳がん新規バイオマーカー探索研究」

◆日本薬剤学会第28年会

最優秀発表者賞  
日本薬剤学会永井財団大学院学生スカラシップ  
日本薬剤学会永井財団学部学生七つ星薬師奨励賞



5月23日から25日に名古屋で開催された、日本薬剤学会第28年会において、薬学部、大学院薬食生命科学総合学府、薬学研究科の学生3名が最優秀発表者賞を受賞しました。この賞は、口演発表の中で、特に優秀な発表を行った若手研究者および大学院生・学部生に贈られるもので、本学は全大学の中で最多受賞者数となりました。また、(財)永井記念薬学国際交流財団より、日本薬剤学会永井財団大学院学生スカラシップに4名、日本薬剤学会永井財団学部学生七つ星薬師奨励賞に1名が選出されました。

最優秀発表者賞

- ・加藤 尚視さん(薬食生命科学総合学府 博士課程前期2年)  
「薬物代謝を考慮した包括的光安全性評価法の開発：フェノフィブラートをモデルとした検討」
- ・寺澤 直彦さん(薬食生命科学総合学府 博士課程前期1年)  
「Glutathioneの体内動態改善を指向した新規Solid-in-oil製剤開発」
- ・見瀬 僚平さん(薬食生命科学総合学府 博士課程前期1年)  
「遠心転動造粒法を用いた微粒子コーティング用核粒子の製造に関する研究 - 原料の粒子径が顆粒物性に与える影響の検討 -」

日本薬剤学会永井財団大学院学生スカラシップ

- ・舟越 由香さん(薬食生命科学総合学府 博士課程後期2年)  
「難溶性薬物の吸収性改善を目的とした脂質ナノ粒子製剤の調整と評価」
- ・加藤 尚視さん(薬食生命科学総合学府 博士課程前期2年)  
「薬物代謝を考慮した包括的光安全性評価法の開発：フェノフィブラートをモデルとした検討」
- ・福田 達也さん(薬食生命科学総合学府 博士課程後期1年)  
「脳梗塞新規治療戦略構築に向けたリポソームDDSの応用」
- ・村尾 卓哉さん(薬食生命科学総合学府 博士課程前期1年)  
「シロスタゾールOD錠(プレタールOD錠)新規製剤の臨床使用における錠剤物性」

日本薬剤学会永井財団学部学生七つ星薬師奨励賞

岡本彩香さん(薬学部6年生)  
「抗体修飾脂質ナノ粒子を用いた腫瘍選択的siRNAデリバリー」



学生選書ツアー開催と「看護研究の基礎」研修における文献検索研修の実施



短大部との合同学生選書ツアーを六月二十一日に戸田書店で行いました。県大生十名と短大部五名の十五名に加え、小林みどり県大附属図書館長、有泉祐吾短大部附属図書館長と職員の見学を行いました。ツアーに参加した学生が選定した本の展示を行っています。選定した学生が一番のおすすり本にはポップによる紹介メッセージを添えています。ポップを仲立ちにして、これまでとは違ったジャンルの本との出会いを楽しんでみてはいかがでしょうか。

また、附属図書館では、現役の看護師を対象に県看護協会が主催する、「看護研究の基礎」研修のうち、文献検索について、

夏に担当しています。

今年も八月二十七日に「医中誌Webによる文献検索」と「雑誌や図書の探し方」について、図書館職員が二十二人の参加者を対象に研修を行いました。

「医中誌Web」は、医療現場に不可欠なデータベースで、入力するキーワードの選択やデータベースの使い方を修得することで、幅広く、あるいは、テーマを絞り込んで医療文献情報を自在に収集することができます。

参加者の真剣に説明に聞き入る面差しに、担当する職員の声にも自ずと力が入ります。

研修後は、附属図書館の見学を行いました。参加者は館内においても文献検索や医療関係の資料探しに余念のない様子でした。



私の1冊の本

環境科学研究所准教授 伊吹 裕子

紹介図書 『マリー・キュリーの挑戦 -科学・ジェンダー・戦争-』

著者名:川島 慶子  
●出版社:朝倉書店 ●図書館所蔵:閲覧室1階  
●ISBN:978-4-901510-89-9 ●請求記号:289.3/C96



「女性科学者」といって、誰もがまず一番にその名を挙げるのが、マリー・スコロドフスカ・キュリー、通称キュリー夫人であろう。マリー・キュリーは、放射性物質を発見してノーベル賞をとった「偉大な科学者」、そして夫ピエール・キュリーと共に二人の子供を育てた「良妻賢母」として、その伝記で伝えられている。妻・母・科学者として素晴らしい女性であったことは事実であるが、本書はこれまでに描かれてこなかったマリー・キュリー、一人の女性の生き方に注目する。また、マリー・キュリーに関わった人たちの生き方にも触れる。

ポーランド人であるマリーは、ピエールとの結婚によりフランスに帰化する。「彼女がその生涯で、男性に対して一歩も引かなかったのは、自分が女性である以前にポーランド人であるという事情が抜きがたく存在していた」と著者は記す。我々人間は、自分の出生や育つ環境を自ら選ぶことはできない。与えられた環境が自身の生き方に大きく影響し、束縛するものと

なることもあるが、本書は、それに屈することなく、逆にそれをばねとして自分の信念を貫き、歩を進めていくことが重要であることを、マリー・キュリーの生き方を通して指し示す。また、マリー・キュリーがおおよそ百年前に生きた女性研究者であることを忘れてしまわないように、本書の内容は現代社会の問題を解決する手がかりを与えてくれる。科学者に国籍は関係あるのか、社会の中での女性の役割とは、女性が仕事と育児を両立するには、そして科学者のあるべき姿とは・・・。理系文系を問わず、これから研究を始める学生諸氏に是非読んで欲しい一冊である。

本学教員からの寄贈著書

- 津富 宏 先生(国際関係学部)  
『犯罪からの離脱と「人生のやり直し」』  
シャッジ・マルナ著 津富宏・河野莊子監訳 明石書店(326.56/Ma56)
- ジョナサン・ディハーン 先生(国際関係学部)  
『Video games and second language acquisition: six genre case studies』  
『Game camp: out-of-school language and literacy development』  
Common Ground Publishing(830.7/D53)
- 佐々木 隆志 先生(短期大学部社会福祉学科)  
『日本における終末ケアマネジメントの研究』  
『An Investigative Study of End-stage Care In Japan』  
中央法規出版(369.9/Sa75)
- 森山 優 先生(国際関係学部)  
『連続シンポジウム 日本の立ち位置を考える』  
明石康編 岩波書店(319.1/A32)

奨学金授与式が行われました

静岡県立大学では、地域の地元企業等の協力による奨学金制度を設けており、学生の支援に有意義に活用されています。今年度は3月から7月までの間に奨学金授与式が行われました。地域の地元企業9社から計23名の学生が奨学金をいただきました。

本年度の奨学生の皆さんのこれからの活躍を期待しています。

TOKAI グループ奨学金

授与式：6月21日

- 薬食生命科学総合学府博士1年 今井 千裕
- 薬学部6年 服部 浩明
- 国際関係学部3年 吉田 直人
- 薬学部2年 程 相涛
- 国際関係学部1年 KHINE MON YEE



静岡ガス奨学生

授与式：7月3日

- 食品栄養科学部3年 TANG THI LONG HIEP
- 国際関係学部2年 韓 叡松



万城食品奨学金

授与式：6月24日

- 国際関係学部1年 韓 佳和



静岡信用金庫奨学生

授与式：6月27日

- 食品栄養科学部4年 戸田 知里
- 国際関係学部4年 池谷 佳名子



東海澱粉国際交流奨学基金

授与式：7月25日

- 薬食生命科学総合学府1年 VU THI TUYET LAN
- 薬食生命科学総合学府1年 劉 季玲



天野回漕店奨学金

授与式：7月31日

- 食品栄養科学部2年 蘇 泓如
- 経営情報学部2年 NGUYEN THI XUAN TRANG



しずぎんアジア留学生奨学金

授与式：3月26日

- 国際関係学研究科2年 JANSEN SUNARDI TAMBUNAN
- 国際関係学研究科2年 KUMAR DEEPAK
- 国際関係学研究科2年 陳 冬梅
- 経営情報学部4年 管 慧娟



ロッキー奨学基金

授与式：7月23日

- 薬学部2年 渡邊 美笛
- 薬学部2年 野上 優月
- 薬学部6年 伊藤 あゆみ



スイチ奨学金

授与式：6月13日

- 看護学部4年 小澤 麻衣 他1名



地元企業等による本学学生への奨学金一覧

名称	給付金額	支給期間	応募資格	25年度採用人数
(株) TOKAI ホールディングス	月額5万円	1年間	全学生(研究生、科目等履修生含む)	日本人3人 留学生2人
静岡ガス(株)	月額5万円	1年間	学部生・大学院生	2人
(株) 万城食品	月額5万円	1年間	中国からの留学生	1人
静岡信用金庫	月額5万円	1年間	静岡県内出身の学部生	2人
公益信託東海澱粉国際交流奨学金	月額3万円	1年間	アジアからの留学生のうち修士大学院生	2人
(株) 天野回漕店	月額5万円	1年間	中国・東南アジアからの留学生のうち学部2～3年生	2人
スルガ奨学財団	月額5万円	2年間(3,4年次)	外国人留学生のうち学部2年生	1人 (平成24年度実績)
清水ロータリークラブ	4万円	一時金	外国人留学生のうち、他の奨学金を受給していない学部新入生	14人 (平成24年度実績)
株式会社静岡銀行	月額10万円	2年間	アジア地域からの国籍を有する学部2年生以上の留学生	4人
静岡県労働者福祉協議会(ロッキー奨学基金)	年額20万円	一時金	静岡県内に在住もしくは勤務する勤労者の子弟で2年生以上の者	3人
スイチ奨学金	月額5万円	1年間	学部2年生以上で授業料減免を受けている者	2人

2014年1月 新館OPEN  
脳ドック スタート!

生活習慣病や  
がんなどの

早期発見はもちろん  
みなさまの健康増進を  
サポートします

静岡SBSグループ



- 検査コース (この他にも様々なコースをご用意しています。お気軽にお問い合わせください)
  - PETがん健診コース 全身のがん検査を行ないます。\*PETで発見が難しいがんもあります。
  - 日帰り人間ドック 日本人間ドック学会の認定基準を満たした検査コースです。
  - 生活習慣病予防健診 ミニドックの検査内容で、リーズナブルなコースです。
  - 法定健診・各種がん検診 40歳以上の方は健保組合・国保で特定健診の補助があります。

■ 女性の方へ・・・

婦人科検診のみの受診もできます。レディースコーナーを設置し、女性医療スタッフを充実させています。静岡市の乳がん検診・子宮がん検診のクーポン券も利用できます。



SBS 静岡健康増進センター

☎ 054-282-1109

🌐 <http://sbs-smc.or.jp>

予約・問い合わせは、  
お気軽にお電話で

# 資格を武器にもう一度働こう

仕事に活かせる本格アロマセラピーを学ぶならアクトへ

- 子供も成長したし  
自分の好きなことにチャレンジしたい
- 好きなことを仕事にしてみたい
- やりがいのある仕事がしたい
- 正社員として就職したい
- 娘と一緒に自宅で開業したい
- 介護をしながら  
自分のペースで仕事がしたい



アクトはそんなあなたを応援するスクールです。

まずは無料スクール説明会にお越し下さい。

授業見学・アロマプチ体験付きのスクール説明会を随時受付中。  
詳細はお電話もしくはホームページをご覧ください。



校長 太田奈月

アロマセラピー・エステティック・調香の総合資格認定校



お問い合わせ・お申し込みはこちらまで、お気軽にどうぞ!

TEL: 054-250-8354 FAX: 054-250-8356

静岡市葵区両替町2-4-15 静岡ONビルキルフェボン様2階

アクト 静岡

検索

広報誌はばたきに広告を掲載する事業者を募集しています。

広告掲載については本学公式サイト「企業・一般の方へ」のページをご覧ください。